

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	苫小牧市	代表者名	岩倉 博文
担当者部署	総務部	連絡先電話番号	0144-32-6196
担当者役職	主幹	担当者氏名	川合 基央
		連絡先E-mail	
住所	059-8722 北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号		

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	データ活用となると統計などの難しいイメージがあり、取り付きにくい印象がありますが、データ活用の必要性について、大変わかりやすく講義していただいた上に、グループワークによるデータ分析の実践を行ったことで、データ活用のイメージが具体的に掴めたのではないかと考えています。 Well-being指標やRESASに触れる機会もあまりないので、グループワークはそれらを知る良い機会となったと思います。 今回は、データ活用のさわりの部分だけでしたが、データ作成やオープンデータなどの内容も是非聞きたいと思いました。
アドバイザーへの要望事項	来年度も可能であれば、対象範囲を管理職などに固定して、同じワークショップを開催したいと考えています。前段に村越さんの内容を聞くと、下山さんの内容が難しく聞こえてしまうので、前後逆転して実施した場合、話の流れ的にはどうでしょうか。また、最初と最後にアプリによる受講者参加型の場面があったが、中盤は説明時間が長く感じられたので途中でも参加型を差込希望。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和6年2月9日	支援・助言(実地)	有	令和5年12月12日	1077
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年2月2日	支援・助言（実地）	10時00分	16時00分	120
			活動時間（分）	240	
3-2. 派遣場所	会場名	苫小牧市役所9階会議室	最寄駅	JR苫小牧駅又はバス市役所前	
	所在地	北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号	最寄駅からの交通手段	*苫小牧駅からバス又はタクシー、バス市役所前（空車乗車（バス利用の場合））からは徒歩	

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
------	--------------------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	市職員 及び 社会福祉協議会職員	59 人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・データ活用やEBPMの必要性が理解されない。 ・オープンデータが進まない。データのおもりができない。 ・積極的に取り組む体制にない。 ・EBPMの意識は皆無であり、どこから手を付ければ良いかわからない。 など	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	・個々の職員がデータ活用やEBPMに取り組む状態となること ・市から多くのデータをオープンデータとして提供する状態 ・市民や事業者がオープンデータを活用し、地域活性化に寄与する状態	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	・午前1回、午後1回のワークショップを開催し、職員にデータ活用の具体的なイメージを付けてもらった。 ・データ活用することで客観性が高まり、合意形成や政策立案を適切に行うことができる等を講義してもらった。 ・グループワークとして、sci-japanのwell-being指標について、苫小牧市と近隣4市町とを比較し、苫小牧市の強みを分析した。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	・講義、グループワークを通して、データ活用の具体的なイメージを付けることができた。 ・これまで発言力の強い人間によって政策立案される傾向にあったが、データという客観性を持たせることが必要であることの理解が進んだ。 ・今回のワークショップにて管理職へ聞かせたいとの意見が多いことから、様々な企画提案を行っても上司に止められている状況が伺えたが、上司説得および自分を守るツールとしてもデータ活用が進むと考えられる。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他
	<ul style="list-style-type: none"> 参加職員がデータ活用に対する具体的なイメージを持ってもらえたことが最大の成果 個々の職員が抱えていた疑問点等を個別に回答いただけたことは、本人にとっては大きな成果
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> 組織全体のデータ活用の意識を変えていく上では、実行層においてデータによる政策立案や効果分析を進めるだけでなく、経営層、管理層もデータによる意思決定を行っていくことが必要である。 今回のワークショップで出された意見には、管理職への受講を求める声が多く、管理職に同様のワークショップに参加してもらい、管理職の意識を変えていくことが今後の課題と考える。 データ作成、オープンデータ化も今後必要と考える。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別紙のとおり
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	今回希望者で行ったワークショップの対象を拡大して開催し、組織全体のデータ活用意識を変革し、データ活用を積極的に進めていく環境とする。

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

